

牛久市行政改革推進委員会		日時	令和元年5月23日(木曜日)
件名	令和元年度第1回牛久市行政改革推進委員会	場所 時間	牛久市役所本庁舎4階第3会議室 10:00～11:55
作成年月日	令和元年6月6日(木曜日)	作成	事務局 町田
出席者	(会長) 宮原会長 (委員) 本郷委員、飯田委員、田中委員、八島委員、本橋委員、鈴木委員、柳井委員 (事務局) 経営企画部 山崎次長、政策企画課 柳田課長、中島課長補佐、町田主任、北辻主事 財政課 大町主査		
議事内容	・管理指標の進捗状況について ・平成31年度当初予算の概要について ・牛久市人材育成基本方針について ・今後の活動計画について(案)		
会 議 内 容 等			
○管理指標の進捗状況について 1. 社会経済情勢の変化に応えられる強固な財政基盤の確立 2. 事務事業の効率的な展開 3. 市民、行政区や自治会、市などの様々な主体が協力し合う「協働」の関係の構築 4. 効率的な行政運営システム構築と組織の編成  【主な意見】 ・市の方針として、今後借金をするよりも積立金を増やすという方向で、あまりお金を支出する予定はないような印象を受けており、今後の人口増加を図る施策等に対して、費用対効果を踏まえて、どれほどメリハリをつけて、例えば住宅環境整備にお金を掛けることや職場を増やすために工場立地にお金を掛けるなど、どの程度まで積極的に人口増加に取り組んでいくのか。 ⇒費用対効果については、今後さらに人口が伸びず税収も増えない時代に入っていくため、重要なポイントであると考えている。例えば、「都市計画を適正に管理する」という事業については、北部地区の市街化調整区域の整備について、区画整理のような手法を検討している。この事業についてはまさに費用対効果の考え方が重要で、これは市がやるべきものなのか、それとも組合がやるべきもので市が補助を出すものなのか、また完全に民間がやるべきものなのかなどの整備手法について検討するということで予算計上している。それらの検討によって、例えば市にとってメリットがあるとなれば、それに対しては、道路をつくる、公園をつくるなどの整備事業に対して借金をするという事も考えている。なぜならば、公共投資というものは、その年だけで終わるものではなく、10年20年と時間が経っても使用できるものなので、今の方々の税金で全てを賄うわけではなく、年度間の公平という形で10年20年後の市民の方からも負担していただくという捉え方をしている。  ・行政区の加入率について、加入率が低い行政区の理由は何か。			

⇒様々な要因があり明確に説明することは難しいが、理由のひとつとしては単身世帯の増加が影響しているのではないかと考えている。牛久市の人口は近年微増で伸び続けていたが、それにも関わらず世帯数が大きく増加し、単身世帯が増えているという傾向があるため、単身世帯の多い行政区において行政区加入率が上がりにくいという傾向があるのではないかと考えている。

・行政区によっては区費を納められないなどの理由で退会される方がいるが、そういう方は年金生活のみの高齢者の方が多いように見受けられる。行政区では、区費以外にも、様々な会費や募金などがあり、それらを含めると、負担する金額が少額とはいえないものとなっている。この中の何かを、例えば市の方で負担してもらうなどして住民の負担を軽減することを検討していただけないか。今後も高齢化が進み、行政区から退会したいという方が増えると思っており、私の周りでも心配する声が上がっている

⇒行政区で集めている区費以外の部分については、タウンミーティングでも話題になることだが、どこまでが行政側で負担になるかということについては、判断が難しい部分がある。頂いたご意見は庁内で話し合っ検討していきたい。

・人件費の中の地域手当について、支給対象者はどの程度いるのか。

⇒牛久市の職員全員に支給されているものであり、支給割合は勤務地により異なり、牛久市の場合、給料、管理職手当及び扶養手当の月額額の12%となっている。また、都内に出向している職員の場合は、都の地域手当の割合である20%での支給となっている。なお、出向している職員は全体で数名となっている。

・市の年齢別職員数をみると、50～59歳の割合が多く、若い人が少ない。あと数年経つと50～59歳の割合の方が退職等になり、その場合に人員の補充をしなければ市の運営に影響が出ると思うが、それに関して市としてどのように考えているのか。

⇒全国的に人口減少となっており、行政だけでなく全ての業界で働き手の確保が課題となっており、また、AIの活用などでいかに人力が掛からずに作業ができるかというような研究等が様々な現場で行われていると聞く。市としては、職員のいびつな年齢構成に関しては危機感をもっており、現在は退職者以上の採用を目指し、今まで採用試験について年1回であったものを、現在は年2回実施しているところである。

・たまり場はコミュニティを拡充するためのものだと思うが、活動内容はどのようなものがあり、また、これをどのような形で管理指標の中で進めていくのか。

⇒たまり場については、様々な活動をされており、コミュニティの醸成に努めていただいている。例えば健康マージャンや手芸などを行っていることなどを聞いている。

たまり場が始まった背景としては、高齢者の方の健康保険料や介護保険料の増大が問題となっていたことがあり、そこで公民館を市民活動の活動場所として開放し、病院や介護施設ではなく、なるべく公民館にたまってもらって様々な活動をしてもらい、また遊んでもらい、医療費等の削減及び健康増進につなげるという趣旨で始まった経緯がある。市の健康寿命は比較的良い状態で、健康で長生きできる状態の方や介護を受けない高齢者の方も増えている状況である。また、平均寿命も延びており、そういったところで市の高齢化に対する施策の成果がでてきているのではないかと考えている。

○平成31年度当初予算の概要について

**【主な意見】**

- ・プレミアム付商品券の導入にあたった理由は何か。

⇒国の消費税・地方消費税引上げへの対策として、低所得者の方や子育て世帯の方など向けに、2万円で2万5千円分の商品券が購入できるもので、経費については国の負担となっている。全国の自治体で実施される予定となっている。

- ・エスカードビルについて、周辺のエリアを活性化させようという具体的な計画は決定しているのか

⇒現在はエスカードビルに関する基本構想・基本計画を策定する段階であり、具体的な話には至っていない。

○牛久市人材育成基本方針について

**【主な意見】**

- ・H14年10月の策定以来、昨今では働き改革などで働く環境が大きく変化していると思うが、人事部局では、時代に合わせた改訂をしないのか

⇒具体的な改訂の時期は決まっていないが、その時代にあったもの策定するという考えはあるようだ。

○今後の活動計画について（案）

- ・事務局で調整の上、後日委員に通達する。